SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS
Vol.198　/　2022 .OCT
（月1回発行）

2年ぶりに東北こども博を開催
～スポーツと音楽で子どもたちを笑顔に～

当日の様子

10月8日（土）本学を会場に「2022東北こども博」を開催しました。

このイベントは東日本大震災に対する復興の一環として2011年10月から「子供も大人も、全ての人々に笑顔をもたらすようなイベントを創り上げること」を合言葉に開催し、今年で10回目（2019年は台風の影響で中止、2021年は新型コロナの影響で中止）を迎えます。

コロナ禍以前は、2日間で約2万人弱が参加するイベントでしたが、今年は人数を1,200名程度に制限し、事前申込制としました

各施設ではストライダーやニュースポーツ、リズムダンス、レクリエーション等の様々な体験コーナーや仙南&富谷市&本学マーチングバンド部による合同演奏会を実施し、来場者約1,200名が笑顔で楽しみました。

来場者からは「触れたことがない、スポーツも楽しむことができ、学生の皆さんも優しい方ばかりで、とても楽しい時間が過ごせました。また来年も来たい」、「親子遊びと働く車の子ども免許証制作・警察車両乗車が楽しかった」、「コロナ禍で、お祭りなどに行けてなかったのでこのようなイベントに参加できて楽しかった」など、多くの感想を頂きました。

次年度は、新型コロナが収束して、通常規模で開催できることを願うばかりです。

〈 目　次 〉

・2年ぶりに東北こども博を開催 ～スポーツと音楽で子どもたちを笑顔に～	1
・韓国国立体育大学校総長ご来訪 ～令和4年度仙台大学名誉特別功労教授授与式を挙行～	2
・NZカンタベリー大学国際交流課職員ジェームズ・ワグホーン氏来訪 ・教員を目指す学生を対象に「教採塾」をスタート	3
・「日本水泳・水中運動学会2022年次大会」で渡邉泰典准教授らの研究チームが研究奨励賞を受賞 ・令和4年度 学位論文予備審査会の開催について	4
・体も心も軽くなる！ヨガ体験授業 ・もっと歩きたい！ノルディックウォーキング体験	5
・2022年度全日本学生柔道体重別選手権大会女子52kg級で中島幸穂が3位入賞 ・2年ぶりに日本選手権東北ステージ優勝／男子ハンドボール部 ・16年連続リーグ優勝！21大会連続インカレ出場へ/男子サッカー部	6
・秋リーグ全勝優勝飾る／男子バレーボール部 ・2季ぶりのリーグ戦優勝を報告/硬式野球部 ・髙木環さん（スポーツ栄養1年）が女子駅伝ブロック発足後、初の全国大会へ	7
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.54	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課
直通　0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

韓国国立体育大学校総長ご来訪
～令和4年度仙台大学名誉特別功労教授授与式を挙行～

左から髙橋学長、朴澤理事長、安総長、陸教授、尹教授

9月28日（水）、LC棟で韓国国立体育大学校の安 容奎（アン ヨンギュ）総長への仙台大学名誉特別功労教授授与式を挙行しました。

韓国国立体育大学は1977（昭和52）年設立の韓国唯一の体育大学で、エリート選手及び多くの優秀なスポーツ指導者を輩出している大学です。本学とは2008年に国際交流協定を締結し、これまで学生の短期留学、女子柔道部と合同合宿、本学50周年記念行事への教員及び学生の招へい等、両学の交流を深めてきました。

今回の授与式には韓国国立体育大学校より安 容奎（アン ヨンギュ）総長、陸 調永（ユク　ジョヨン）教授、尹昌善（ユン チャンソン）教授が来訪。はじめに朴澤泰治理事長が「仙台大学の大きな財産である貴大学との交流を実現できたのは、安総長のご尽力のお陰であり、今後も両大学の交流がますます拡大・発展していくことを祈念いたします」と感謝の意を表し、安総長は「本日から私は名誉教授として仙台大学の家族となります。両校が世界を引っ張る最高の大学になれますよう、精一杯努力して参ります」と挨拶しました。

式終了後は、現代武道学科の学生など約50名に、安総長による「韓国の体育環境と韓国体育大学の役割について」、陸教授による「Body Action Therapy」の講演が行われました。

また、当日の午後、アスレティックトレーニングルーム、剣道場、柔道場及び体操場などの施設見学などを行い、29日（木）には、岩手県にある中尊寺を訪問し、世界遺産に登録されている金色堂などを見学しながら日本の歴史と文化を研修されました。

安総長は、帰国に際して「今後、仙台大学との教職員及び学生間の国際交流、また共同研究などをますます進行するよう願っています」というメッセージを寄せられました。

コロナ禍で国際交流機会も少なくなったため、今回の韓国国立体育大学校の安総長の来訪は貴重な国際交流の機会となりました。

＜国際交流課＞

NZカンタベリー大学国際交流課職員ジェームズ・ワグホーン氏来訪

10月13日（木）に、ニュージーランド・カンタベリー大学のジェームズ・ワグホーン氏（国際交流課職員・学生サービス・コミュニケーションリクルーター）が来訪しました。

本学は昨年7月16日にカンタベリー大学と連携協定を締結しておりましたが、新型コロナウイルスの影響による渡航制限等もあり、今回が初の先方からの来訪となります。

午前は、仙台大学附属高等学校の校舎を見学しながら授業参観し、昼食では明成高校食文化創志科の生徒が準備した郷土料理を食してもらい、宮城の郷土料理に舌鼓をうっていただきました。

午後は本学に移り、キャンパスの見学と情報交換会を行い、ジェリー・パランギ准教授から、マオリ族伝統の挨拶で歓迎を受けました。またニュージーランドにあるCCELへの留学を希望している学生が、来年７月からカンタベリー大学で開講する「スポーツコーチング」の講義への参加希望をワグホーン氏に英語で伝え、ワグホーン氏からは学生へ記念のUCシャツが贈られました。

その後の本学クリケット部との交流では、クリケットが趣味であるワグホーン氏はクリケットが仙台大学で定着していることに驚かれ、喜びの言葉を交わし、最後に「関係者と学生の皆さんにカンタベリー大学を是非訪問してください」と述べました。

＜国際交流課＞

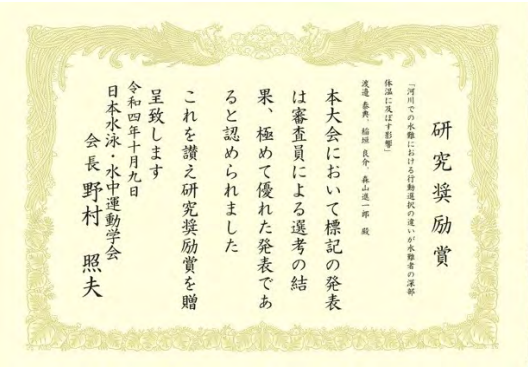
教員を目指す学生を対象に「教採塾」をスタート

本学は毎年、教員になりたいという目標を持っている学生のために、「教採塾」を開設しています。ここでは年間を通じて、専門知識を有し教育現場で豊富な経験を持つ教員の的確な助言や実技、模擬授業の実践的な練習、同じ教員を目指す他大学との交流など様々な活動を行っています。

今年度の「教採塾」開始式は10月18日（火）に1年生、19日（水）は2・3年生を対象に本学内で行われ、約200人が参加しました。

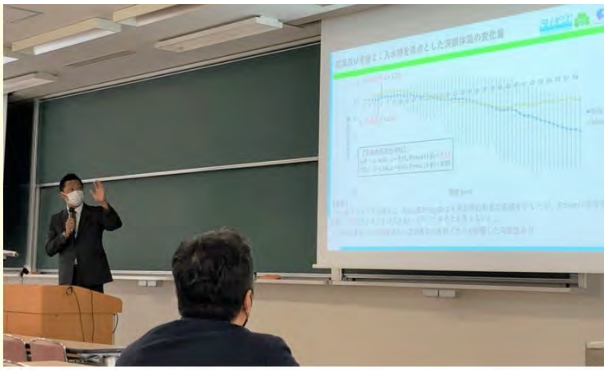
髙橋仁学長は「先輩方の勉強の仕方や先生方のアドバイスを参考にしながら一人でも多くの方が教師として活躍できるように応援しています」と激励した。また、チーム教採の前チームリーダーで今年度、宮城県の教員採用試験で現役合格した大沼明美さん（スポーツ栄養4年）は「仙台大学には、いろんな種目を専門に行ってきた人がたくさんいるので、学生同士で得意な種目について助言したり、苦手種目を教えてもらうなどお互いに共有できることがチーム教採の魅力の一つ」と話してくれました。

「日本水泳・水中運動学会2022年次大会」で渡邉泰典准教授らの研究チームが研究奨励賞を受賞


研究奨励賞

「河川での水難における行動選択の違いが水難者の深部体温に及ぼす影響」
渡邉 泰典　稲垣 良介　森山進一郎　殿

本大会において標記の発表は審査員による選考の結果、極めて優れた発表であると認められました
これを讃え研究奨励賞を贈呈致します
令和四年十月九日
日本水泳・水中運動学会
会長 野村 照夫



このたび本学、渡邉泰典准研究チームが、10月8・9日（日）の両日、東京女子体育大学を会場に開催されました「日本水泳・水中運動学会2022年次大会」で、研究奨励賞を受賞しました。

長年、溺水は世界的課題として認識され、世界の各機関がその改善に取り組んでいます。
近年、国際的な水泳教育の考え方では、水難時、水中で危険を回避するために泳ぐことが溺死を避けるために必要な場合があること、冷水への対処として意図的に泳いで熱を産生するという戦略が必要な場合があることが少しずつ認識され始めています。
一方、我が国の安全教育としての着衣泳では、「泳がずに浮いて待つ」ことが強調されるケースが散見されます。しかしながら、警察庁が毎年６月に公表する報告書で、中学生以下の子どもたちの溺水死亡事故の約半数が河川で発生することが示されており、果たして浮いて待つことを強調する教育内容だけで良いのかについて再考する必要がありそうです。

渡邉泰典准教授らの研究チームは、９月中旬の岐阜県長良川をフィールドに、実際に人が河川の水に浸水した時の深部体温の変化を調査しました。検証の結果、水温19～20℃程度の状況では、手足を動かして移動することが、何もせずに救助を待つより、体温低下を軽減する可能性が示されました。今回の結果が、すなわち、泳いだ方が良いことの根拠にはなりませんが、少なくとも、ペットボトルを抱えてただ浮くことを教える教育内容ではなく、呼吸確保や体温低下の軽減のために、手足を動かすという選択肢があることを裏付ける資料になるかもしれません。

【研究奨励賞】
「河川での水難における行動選択の違いが水難者の深部体温に及ぼす影響」
渡邉泰典（仙台大学）、稲垣良介（岐阜聖徳学園大学）、森山進一郎（東京学芸大学）

令和4年度 学位論文予備審査会の開催について

10月11日（火）から14日（金）まで今年度修了予定である13名の院生を対象とした学位論文予備審査会を開催しました。

この予備審査会は、教職員、院生、学生に公開され、傍聴者の中には、発表内容や教員からの質問などを熱心にメモする姿も見受けられました。
今回の発表者である、修了予定の院生は、引き続き1月の学位論文審査会に向けて取り組んでいきます。
＜大学院事務課＞

体も心も軽くなる！ヨガ体験授業

10月6日、健康福祉学科2年生対象に「ヨガ体験授業」を行いました。この授業は健康支援・介護予防演習として毎年実施され、今年で7回目です。

健康福祉学科卒業生の中村孝子講師（2001年度卒・インド中央政府公認ヨガインストラクター）の指導のもと、静かに呼吸し体を動かしたり、筋力アップにもなるポーズをしたりしました。講師から、「大地を踏みしめるように、自分と向き合う時間にしましょう」などの声がけもあり、集中する時間を経験できました。

学生からは「体も心も非常に軽くなり、とても驚いた」、「自分と向き合う貴重な時間をもてた。先生の声かけやゆったりとした音楽など全てが癒しだった。」、「ヨガは初めてだったが、自分でも続けたい」、「体が硬くても、体を伸ばせて気持ちよかった」「久しぶりにとてもリラックスし、不安が解消された」などの感想が寄せられました。

今後も、引き続き、健康運動指導方法の実際を学んでいきます。

＜健康福祉学科＞

もっと歩きたい！ノルディックウォーキング体験

10月20日（木）、健康福祉学科2年生がノルディックウォーキング（NW）を体験しました。講師は、同学科卒業生の星勝久さん（国際NWナショナルトレーナー）で、健康運動指導の実際に触れました（健康支援・介護予防演習の一環）。

秋晴れの空の下、ポールの使い方を学び、準備体操を行い、早速、大学付近の自然散策路をNWで歩きました。

学生からは「上半身も使うウォーキングで新鮮だった」、「風が気持ち良く、足の疲れもなく、もっと歩いていたいと感じた」、「ポールを押す推進力で、坂道も楽だった」等の感想や、今回実践した以外の歩き方やポールの価格等の質問が寄せられました。

講師からも「NWは通常歩行よりエネルギー消費が多く、また、必ず地面にポールが着いているため高齢者などでも安心感が得られます。これを機会に、関心をもっていただけると幸いです」とコメントをもらいました。

今後も、心身の健康につながる運動を学びます。

＜健康福祉学科＞

2022年度全日本学生柔道体重別選手権大会 女子52kg級で中島幸穂が3位入賞

2022年度全日本学生柔道体重別選手権大会が10月1日、2日（日）に日本武道館で開催されました。

本大会は年間を通じて行われる学生3大会のひとつであり、各地区（9地区）の予選を勝ち上がった男女7階級の個人戦で行われる大会です。

東京五輪の準備で使用ができなくなった日本武道館での開催は2018年以来となります。

本学からは男子7名、女子17名が東北地区代表として出場しました。

その中で、9月に行われた全日本ジュニア大会で3位入賞を果たした52kg級の中島幸穂（現代武道学科2年）が、今大会においても3位に入賞しました。

そのほかに女子70kg級の新名彩乃（現代武道学科2年）、女子78kg超級の田井知亜季（現代武道学科3年）がベスト8に入賞しました。

男子は女子と比べて各階級の出場人数が多く、上位入賞にはこれまで厳しい戦いを強いられていましたが、今回は60kg級の檜垣大地（健康福祉学科3年）が1、2回戦を勝利して男子としては久しぶりのベスト16という結果を残しました。

＜柔道部＞

3位入賞した中島選手

2年ぶりに日本選手権東北ステージ優勝／男子ハンドボール部

10月22日、23日（日）に宮城県加美町にて開催された、第74回日本選手権大会東北ステージ兼第59回東北総合ハンドボール選手権大会において、男子ハンドボール部が優勝を果たし、12月7日から山口県周南市で開催される日本選手権本選への出場権を獲得しました。

今大会の優勝は、2年前に51年ぶりの復活優勝を果たして以来、2年ぶり3回目となります。

今大会は、2日間で4試合を行うハードスケジュールでしたが、終始安定した試合展開で全試合勝利を収めることができました。

日本選手権は国内最高峰の大会として位置づけられており、国内トップの24チームで競うトーナメント戦です。 東北地区代表として全力を尽くしますので、応援よろしくお願いします。

＜男子ハンドボール部＞

優勝に喜びの部員たち

16年連続リーグ優勝！21大会連続インカレ出場へ/男子サッカー部

東北大学サッカーリーグ後期第4節が10月24日（月）に岩手県・遠野運動公園で行われ、富士大学に6-0で勝利を収め、リーグ戦残り1試合を残して16年連続となるリーグ優勝を決めました。

この結果を受けて12月に開催予定の全日本大学サッカー選手権大会（インカレ・21大会連続38回目）への出場権を獲得しました。

秋リーグ全勝優勝飾る／男子バレーボール部

男子バレーボール部が9月から行われた東北大学バレー2022年秋季リーグで全勝優勝を果たしました。
最終戦は10月16日(日)に聖和学園短期大学を会場に東北公益文科大学と対戦しました。

●結果は以下の通り
16日　仙台大学　3（25－14、25－22、25－22）0　東北公益文科大学

最上級生の似内滉斗（体育4年・オポジット）と小野寺隼人（体育4年・セッター）がチームを牽引しました。またベンチメンバー全選手が要所で活躍し、チーム一丸となって勝利を収めました。

今後、男子バレーボール部は11月28日から東京都で開催される全日本インカレに東北の代表として出場します。
引き続き、仙台大学男子バレーボール部の応援をよろしくお願いいたします。
＜男子バレーボール部＞

2季ぶりのリーグ戦優勝を報告/硬式野球部

9月3日（土）～10月11日（火）に仙台市・東北福祉大学野球場で開催された令和4年度仙台六大学野球秋季リーグ戦で2季ぶり8度目の優勝を果たした硬式野球部が10月14日（金）に朴澤泰治理事長と髙橋仁学長へ優勝報告をしました。

小笠原悠介主将（体育4年）は「今年も明治神宮野球大会に出場するには、チームとしてもまだまだ成長する必要があると思うので、しっかり練習して東北地区代表決定戦に臨みたいと思います」と意気込みを話してくれました。

今後、硬式野球部は10月29・30日(日)に仙台市民球場で開催される第53回明治神宮野球大会・第14回東北地区大学野球代表決定戦に出場し、2年連続となる全国大会への出場を目指します。

左から森本吉謙監督、朴澤泰治理事長、佐々木駿一主務（スポーツ情報マスメディア4年）小笠原悠介主将（体育4年）、髙橋仁学長

髙木環さん（スポーツ栄養1年）が女子駅伝ブロック発足後、初の全国大会へ

陸上競技部の髙木環さん（スポーツ栄養1年）が10月30日（日）宮城県仙台市で行われる第40回全日本大学女子駅伝対校選手権大会に東北学連チームの2区（3.9km）として出場することが決まりました。

大会に向け、髙木さんは「初めて走る全日本大学女子駅伝ですが、自分の得意とする登りをうまく利用し、たくさんの方からの応援に感謝しながら最後まであきらめないで走り切ります。少しでもチームに貢献できるよう頑張ります」と意気込みを話してくれました。

今回の選出は2021年4月に陸上競技部女子駅伝ブロック発足後、初の全国大会出場となり、大きな一歩を踏み出しました。

なお当日は、12時30分頃に仙台育英学園前（総合運動場側）からスタートする予定です。応援よろしくお願いいたします。

10月12日（水）髙橋仁学長（左）へ東北学連チームの選考メンバーに選出されたことを報告する髙木さん（スポーツ栄養1年）

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.54

助手　白坂　広子

9月29日、仙台大学附属明成高校の福祉未来創志科3年生に「外傷の応急処置」について講習を行いました。

内容は出血の手当て、打撲・捻挫・骨折の場合の手当て、松葉杖の使い方、回復体位のやり方、そして搬送方法を講習しました。

出血の手当てでは直接圧迫止血、間接圧迫止血、そして鼻血への対応でした。間接圧迫止血は少し難しいところもあったようですが、上腕動脈を触診し圧迫して橈骨静脈がふれなくなったことが確認できたときの生徒たちは満足げな顔をしていました。また、打撲・捻挫・骨折の手当てはRICE処置についておさらいをし、松葉杖の使い方では階段の上り方や降り方を実技をとおして学びました。回復体位はペアを組んで傷病者役と救助者役に分かれて実技を学び、どうしてこの体勢がいいのかを考えながら行いました。搬送方法では傷病者を仰向けに起こしてから担架へ乗せ、声を掛け合いながら目的地へ運ぶという一連の流れをグループごとに行いました。うつ伏せで倒れている人、横向きに倒れている人など、状況が違う場合の搬送も行いました。

授業で学んでいますが実技で行うことは初めてだったようで、生徒たちはみんな真剣に、そして楽しみながら受講していました。

スポーツ現場と介護現場では全く違いますが、外傷処置方法に大きな違いはありません。悪化させないように、適切な処置で対応する、これは共通です。人の命にかかわる職場での必要な技術になりますので、実技でしっかりと学んでほしいという先生方の思いから実現した授業でした。内容について先生方にも満足頂けたようで、これからも続けていく予定です。

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園（明治12年開設）の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探求することに継承されてきた。

なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能力を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科（修士課程）も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみることが好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・ スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 （リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください）

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（仙台大学学則別表第一）

■3つのポリシー ①学部 ②大学院
③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科
⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画